

珠算

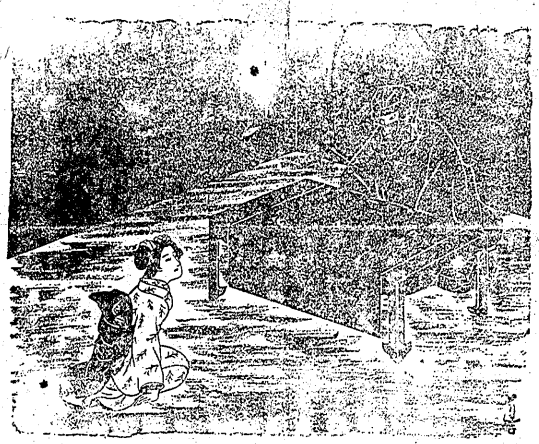
九々いらす珠算に就て

吉田 松雄

三十
應用問題
例一
年利一割二分の利益にて、一ヶ月後の元利合計八十
四圓となるべき元金は何
程か(法一、法八四)
計算法
3000(0.12+1)=7514
一、法一と法八を見合せ
二、法八を掛合せ法
桁を十位として引くので
あるが、次の桁が四であ
るから八は引けない故に
實七を見て「X」を次
の桁より引く。
盤面七五二
次に法五と法七を掛け合
して「X」を引く
盤面六八二五二
次に法五と法七を掛け合
して「X」を引く
盤面六八二五二
次に法五と法七を掛け合
して「X」を引く
盤面六八二五二

潮聲例會 三月課題高
久松堂審判事 一、春の
霜 三句：晚霞選 一、春
潮 三句：紙上互選 一、
離市 三句：坂田守穂選
選(募るもの) 一、吟行
句會 一、詠草(切は)
三月十五日駒形松堂居へ
一、例會は三月十七日午
後五時より北町北斗荘に
て、會費一不要但晩霞は
北斗荘にて用意あり

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた



龍雲齋鐵眼は、しばらく
胸をよるはせた
はつと息づまるやうな思
ひに、静香はうつむいたま
し、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

隨身邊感上
島田 忠夫
○晩霞氏の「悼姉」の
歌
今朝、出かけに「新報」紙
を受取つて、電車の中で讀
む。高久晩霞國手の「悼姉」
が載つてゐる。晩霞の
手は、謂はば磐城歌壇の草
分けである。既に老境に近
かみながら、實に好む
「龍雲齋鐵眼」は、萬葉とか、古
の歌などを見るに、力
をこめて、この「悼國手」の
歌の方が好む
玉の緒の六十年は短か
らじ半生を病みした
はしき姉を
病み疲れて死と戦へる
苦しみを弟のわかれの
耐へめや

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

浪人長屋
日岐武志作
(31) 月夜道子畫
あやし術
恐る恐る、娘が机の前に
座るのを待って、黒装束は
「龍雲齋鐵眼でござる」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた
「はい、追ひ分百百姓兵
衛の娘、静香と申します」
と、おごそかに、鏡のあ
らゆるの待って、ちろりと黒
塗の髪を正に解放され萬物
の頭巾の中から娘の顔をみ
た。「お前は、何處の名はん
と申すか」
と、たづねた

ランドセル
手提カバン
ツルヤ
小学生用運動靴
電話 140

見習生募集
高橋時計店
精幸堂
平町才徳小路
（キタチ自動車店向）

高久病院
平町田町七〇番地
電話 五三二番

山崎合名會社
味噌醬油
たひら正宗
福島縣平町
電話(本店)二七〇番

磐城共濟病院
電話 六四二番

貴方の御家庭に
本會を御利用下さい
直に家政婦を派遣します

上原家政婦會
平町紺屋町二(電話呼六五二)

福島音頭
本縣ノ郷士民諸生
ヨロシキニ
「ハ」除夜のツツケ間に
咲いたア花。法寺平名は
新川にソサツチも平名ヨロシキ
手拍子揃モトヨサツチ

賀澤眼科
平町南町
電話 七二番

西村屋藥局 種子部
電話 2・電 3

石城産科學校
電話 三五七番

釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話 九番 九九番

高久病院
平町田町七〇番地
電話 五三二番

福島音頭
本縣ノ郷士民諸生
ヨロシキニ

阿部材木店
磐城國平町(公園下)
電話 四九四番

軍神去つて茲に卅年

明治三十八年の今日を偲び

白水で大越中佐追悼會

内郷村大字白水出身大越中佐を偲ぶ。白水で追悼會。白水で追悼會。白水で追悼會。

白水で追悼會。白水で追悼會。白水で追悼會。白水で追悼會。

高月の二百十六名

警中第卅四回卒業式了

警中第卅四回卒業式了。警中第卅四回卒業式了。警中第卅四回卒業式了。

農村の手先藝術

七分間十三米二〇

農村の手先藝術。農村の手先藝術。農村の手先藝術。

高等官待遇を受くる

都計委員の朗かき加減

都計委員の朗かき加減。都計委員の朗かき加減。

立志傳中の金成大尉

平商から警中へ轉校

立志傳中の金成大尉。立志傳中の金成大尉。

授産と生活改善協議

昨日の郡下方面委員會

授産と生活改善協議。授産と生活改善協議。

男の子持っ誇り

第七回表彰決定

男の子持っ誇り。男の子持っ誇り。

平驛乗客増

去月分の乗客増

平驛乗客増。平驛乗客増。

卓上電話機

本月一日から改正

卓上電話機。卓上電話機。

福貯の硝子破り

有力な嫌疑者引致

福貯の硝子破り。福貯の硝子破り。

鎌田青年會

改選と統制協議

鎌田青年會。鎌田青年會。

只飲み常習

再行刑務所入り

只飲み常習。只飲み常習。

電話買受り度

七回餘の無銭遊興

電話買受り度。電話買受り度。

吉田眼科病院

本院の設備

吉田眼科病院。吉田眼科病院。

吉田眼科病院

本院の設備

吉田眼科病院。吉田眼科病院。

吉田眼科病院

本院の設備

吉田眼科病院。吉田眼科病院。

吉田眼科病院

本院の設備

吉田眼科病院。吉田眼科病院。